

NEWSLETTER 21

GLOBAL MAPPING

国連地理情報ワーキング・グループ(UNGIWG)

国連地図課 課長

村上 広史 博士



右側が村上課長

国連は地理情報の利用の調整や整備に取り組んでいる。ここでその活動と最近の展開について簡単に紹介する。

国連組織のほとんどの機関やプログラムでは、平和維持活動や人道支援、全世界の人口統計の分析や環境分析など、それぞれの独立したプロジェクトに地理情報を利用している。活動上の要求がますます複雑化し、急速に技術が進歩したことは、国連における、地理情報のそれらのプログラムへの利用の拡大の原動力となっている。しかし、それらの情報は、往々にして欠けていたり年数が経っていたりし、存在した場合でも、異なる部局で行われるプロジェクト間で、地理情報の利用の調整は行われていない。

この状況を改善しようと、1996年から地図課課長の職にあった前地図課長のミクロス・ピンサー氏により、共通の問題に取り組み、新しい技術の変化に対応するため、国連本部において非公式のワーキング・グループの会議が行われてきた。この試みは国連内で高い評価を得、組織全体の公式なワーキング・グループの設立の強い支持を取り付けた。これらの努力は最終的に2000年3月の国連地理情報ワーキング・グ

ループ(UNGIWG)の設立となった。国連事務総長のコフィ・アナン氏は2001年3月1日にニューヨークで開催された米国地理学者協会(AAG)会議の基調演説でUNGIWGの適切性を認めた。彼は、「昨年、我々国連では、多岐に渡る多くの部局での地図・地理情報の利用法を改善するために、地理情報ワーキング・グループを設立した。本ワーキング・グループの主な目的のひとつは、共通の国連地図データベースの確立である。本ワーキング・グループは、国家地図作成機関、非政府組織、産業グループや研究機関と協力するであろう。」と述べた。

国連の最も高いレベルの承認と支持のもとに、地図課では第2回UNGIWG会議を計画し、2001年3月5日～7日に開催した。本会議は国連食糧農業機関(FAO)の主催により、ローマのFAO本部において開催され、国家地図作成機関、国際的な非政府組織や産業界とともに国連の様々な部門、部局やプログラムから約100名の参加を得た。第1回会議で採択された決議の促進と実施を目的とし、今後1年間の短期的な重点

(4頁に続く)

地球地図国際運営委員会はジョン・E・エステス教授の逝去を悼む

地球地図国際運営委員会委員長のジョン (ジャック)・E・エステス教授は2001年3月9日に突然、癌との戦いの後に逝去された。

ジャックは1969年以来カリフォルニア大学サンタバーバラ校に在職し、地理学教授兼地理リモートセンシング研究科科長を務めた。彼の研究の関心は、主に地球資源分析のためのリモートセンシングとGIS技術の基礎・応用の問題に向けられた。

ジャックは高邁な視野と地球規模の展望を持つ科学者であった。彼は設立当初から地球地図国際運営委員会の委員長を務め、その間に、地球地図整備の重要性と意義は、資源管理、環境保護、防災等の分野で世界的にますます認識されてきた。彼のたゆまぬ努力と幅広い知識は、印象的な人柄とともに、常に、この拡大し続ける地球地図プロジェクトの原動力であった。個人や国家の利益を超えて、彼は、各国が等しい機会や現代技術の利点を楽しむ地球を描き、地球全体の究極の福祉や幸福のために貢献した。

地球地図は、常にジャックとともに確実に歩んだ。

1994年11月に、地球地図国際ワークショップが出雲市で開催され、この国際協力の取り組みの出発点となった。ジャックは世界中から集まった19名の専門家の1人としてワークショップに参加し、出雲ワークショップ決議の作成に精力的に貢献し、地球環境問題のための地図作成者の責任

について、自身の意見を盛り込んだ地球地図の基本原則を定義した。

出雲でのワークショップの15ヶ月後、1996年2月につくば市で、第2回地球地図国際ワークショップが開催され、地球地図国際運営委員会が設立された。ジャックは、満場一致で初代の委員長に選ばれた。ジャックは、委員会をその創成期に強力なリーダーシップで軌道に乗せた。

1996年11月に、国連、カリフォルニア大学サンタバーバラ校、日本国政府の共催で、環境に関する多国間宣言実施のための地球地図国際セミナーが、サンタバーバラにおいて開催された。ジャックはこのセミナーの議長を務め、サンタバーバラ声明の宣言でセミナーを締めくくった。

ジャックは地球地図国際運営委員会委員長として、1996年2月につくばから、2000年5月のケープタウンまでの7回の地球地図国際運営委員会会合や、1997年の岐阜フォーラム、1998年のスーフォールズにおけるフォーラムとともに、特別会合やワーキング・グループ会合の議長を務めた。ジャックはまた、学術会議、専門家会議や国連の会議において可能な限り機会を利用し、積極的に地球地図を促進した。

ジャックは、1998年に、国連を通して、世界のすべての国家地図作成機関に対し、地球地図へ参加するよう要請した。この呼びかけに応え

て、83ヶ国が現在までに地球地図に参加し、その面積は全球の陸域の3分の2を意義深く網羅する。

彼が抱いた意見や構想は、未だ、完全には実現されてはいないが、確実に進行中である。ジャックが、先の2000年11月の広島での地球地図フォーラムにおいて、地球地図第一フェーズの完成や、この取り組みの最初の成果の公開の開始を祝い、進展を確認できたことは私達の大きな慰めである。彼は、会議場を離れたところで身体の不調を覚えたであろうが、フォーラムを最も精力的に、専門的見地から指揮進行し、記憶に残る成功へと導いた。彼の言葉は我々の耳元で未だに鳴り響き、我々に、立ち上がり、彼が新しい世紀へ切り拓いた地球地図の道を継続し、その莫大な可能性を活用するよう勇気づける。

エステス氏の情熱に心から感謝し、フォーラムの開会の言葉から一節を引用しよう。

「なぜなら、我々が忘れがちであるが、絶対に忘れてはいけないことは、地球が、時間の枠の何十年以上にわたり生命を支えることが証明された、唯一の既知の閉鎖的生命維持体系であるということである。それは尊く、我々はそれを理解する必要がある。地図はこの体系の作用を理解するためには必須であり、私は、我々の理解を促進するために、地球地図データの提供を待ち望む。」

2000年11月28日、 ジョン・E・エステス (広島における地球地図フォーラム2000の開会の言葉より)

第7回国連米州地域地図会議

第7回国連米州地域地図会議は、2001年1月22日～26日、ニューヨークにおいて開催された。本会議は米州地域空間データ基盤常置委員会が設立されて以来、最初の国連米州地域地図会議である。したがって会議をとおして空間データ基盤が主な基調となった。米国地質調査所のジョン・ケルメリス博士が、開会セッションで地球地図に関する招待発表を行った。地球地図国際運営委員会報告も、同委員会事務局長の秋山實により行われた。さらに、多くの報告や発表が、空間データ基盤の整備と利用に関連する地球地図に言及した。会議は、以下に述べる地球地図を盛り込んだ10の決議をもって締めくくられた。

地球地図に関する決議

- * 地球地図の整備はアジェンダ21の実施のための意義深い貢献であることに留意し、
- * 地球地図バージョン1.0データが最初のグループ国について完成し、利用可能となったことを

賞賛をもって留意し、

- * 地球地図の整備が、持続可能な開発や自然災害のさらなる軽減にとって極めて重大であり、米州地域の地域空間データ基盤、全地球空間データ基盤作業計画、国連地理データベースやその他の空間データ基盤の取り組みの整備に貢献することを認識し、
- * 地球地図に未だ貢献していない参加国に対して、地球地図国際運営委員会や米州空間データ基盤常置委員会の支援により参加を考慮することを勧告し、
- * 来る第8回地球地図国際運営委員会会合において、地球地図フェーズ2や地球地図仕様に関する問題の評価に際し、国家、地域や全球レベルでの利用者の必要条件に従い再検討することをさらに勧告する。

(1頁より続く)

課題を確認するために、本会議で7つのタスク・フォースが設立された。また、委任事項も承認され、UNGIWG戦略計画に基づく作業を開始することが合意された。UNGIWGに関する詳しい情報は以下のアドレスの地図課のホームページを参照されたい。

<http://www.un.org/Depts/Cartographic/english/htmain.htm>

会議において参加者は国連組織内における共通の地理データベースの確立への支援を再確認した。しかし、このデータベースは、関係の国家や地域、国際機関の何らかの支援なしには、国

連のみでの整備や維持は難しいであろう。この状況で、我々は地球地図のためにISCGMが行った取り組みや功績に非常に感謝し、全地球地理データベースの整備に向けた我々の共通の努力における協力の強化を希望する。また、ごく最近、国連地理データベースのプログラム整備について、我々が提案した予算が国連基金により承認された。この資金が、国連組織の中での幅広い利用に向け、実際に地理データベースを整備し、関係の取り組みとの間のさらなる協力を促すことを希望する。

地球地図の参加状況

地球地図の参加状況

2001年3月25日現在

地球地図の参加国・地域数

83ヶ国・地域

地球地図への参加を検討している国・地域数

35ヶ国・地域

地球地図への最近の参加国

エルサルバドル国立地理院国立登記センター(CNR)

2月22日参加

アンティグア・バーブーダ測量局

2月27日参加

地球地図及び関連の会合予定

以下は地球地図及び関連の会合の予定です。関連の会合についての情報を歓迎します。

2001年

4月16日～27日、米国、ニューヨーク

第9回持続可能な開発委員会本会合

4月24日～27日、つくば

第7回PCGIAP会議

5月6日～11日、韓国、ソウル

FIG ワーキングウィーク 2001

5月22日～24日、コロンビア、カルタヘナ

第5回GSDI会議

5月25日、コロンビア、カルタヘナ
第8回ISCGM会合

6月24日～28日、カナダ、フレデリクトン
第2回デジタル・アース国際シンポジウム
<http://www.digitalearth.ca>

8月6日～10日、中国、北京
第20回国際地図学会議

編集、発行：国土地理院

地球地図国際運営委員会事務局

連絡先：〒305-0811 茨城県つくば市北郷1番

Tel: 0298-64-6910 Fax: 0298-64-6923

E-mail: sec@iscgm.org

<http://www.iscgm.org/>